



キャンパス・コンソーシアム函館
合同公開講座

函館学 2011

第6回講座
講義資料

道南の自然史

— とっておきのカニや貝の話 —

五嶋 聖治

北海道大学大学院水産科学研究院 教授

日時：平成23年11月26日（土）午後2:00～3:30

会場：ホテル法華クラブ函館

主催：キャンパス・コンソーシアム函館

講師略歴

ごしま せいじ

五嶋 聖治 氏 北海道大学大学院水産科学研究院 教授（海洋生物学）

1950年仙台市生まれ。九州大学大学院理学研究科博士課程修了。現在の所属は、北海道大学大学院水産科学研究院／海洋生物資源科学部門／海洋生物学分野／ベントス学領域。

専門は動物生態学、水産増殖学。オオノガイ、ホタテガイ、サラガイ、アサリなどの貝類、ハナサキガニ、ホッケイエビ、ヤドカリ類、シオマネキ類などの甲殻類、そしてナマコ類など、さまざまなベントス（底生生物）を材料に、生態学、行動生態学、水産増殖学に関する基礎から応用までの研究を行い、生態学的アプローチをいかに水産へ応用するかを研究している。最近では知床半島や道南沿岸の生物多様性も調査研究している。

主な著書は、「みなみ北海道の自然誌」（共著、幻洋社）、「自然観察フィールドガイド、みなみ北海道の森・川・海」（共著、北海道新聞社）、「海洋ベントスの生態学」（共著、東海大学出版会）、「ナマコ—その生物、産業、文化」（共著、成山堂）など。

道南の自然史：とっておきの貝やカニの話

五嶋聖治 北海道大学大学院水産科学研究院

道南周辺は、西は日本海、南は津軽海峡、そして東は太平洋と噴火湾に取り囲まれています。これらの海域には水温が高めの暖流と、低めの寒流がそれぞれ流れており、海の環境は大きく異なります。当然、そこに生息する生物の種類も大きく異なっています。今回は、多様な環境条件を示す道南の海域にすむ生物の中から、底生生物（ベントス）と言われる種群を取り上げ、貝類やエビ・カニ類（甲殻類）の多様な生き方を紹介します。

1. 道南周辺の海洋環境
2. 道南沿岸に生息する多様な底生生物（ベントス）の暮らしぶり
 - ・ ムイ（オオバンヒザラガイ）とアワビの戦い
 - ・ 啄木がたわむれたカニはどんなカニ？
 - ・ こどもを守るヒメヒトデ
 - ・ ホタテガイの発見地は函館
 - ・ その他
3. 多様なベントス相と道南の海洋環境の関係

本講演では、はじめに道南を取り巻く海況について説明し、同じ道南周辺でも地域によっていかに海洋環境が異なっているかを示します。次いで、その多様な海洋環境にすむさまざまな貝類、カニ類について、道南の自然環境、歴史と文化に関係した、とっておきの話をいくつか紹介します。暖流と寒流が複雑に入り組む道南には、南方系と北方系の多様な底生生物が生息し、さまざまな暮らしぶりを示しています。そしてこれら多様な底生生物は道南の水産業をはじめとする私たちの生活と密接に関係し、人々の暮らしを支えています。今回は、道南に住む私たちの生活に直接間接に影響する道南の豊かな自然環境を、底生生物を通して見つめ直したいと思います。